令和8年度第5回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会　要点録

■会議の日時等

日時　令和8年（2026年）11 月4日（水） 午前10時00分～正午

会場　日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2 階多目的室

出席者　協議会委員

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員

【市民委員】

公募市民：小松原委員、清水委員、新井委員

市民団体：関口委員、小野寺委員

学　　生：興津委員、五味委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、多治見委員（本人欠席のため代理出席）、津嶋委員、内田委員

【クリーンセンター長兼施設課長】

井上委員

【環境政策課長】

成澤委員

事務局

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、志村係長、河本主任、土屋主事

欠席者　協議会委員

【市民委員】

公募市民：小川委員

学　　生：鈴木委員、田中委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

新野委員

傍聴者　2名

次第

1.開会

2.議事

3.その他

4.閉会

■主な内容

<協議会>

1. 開会

開会のご挨拶（日野市）

2. 議事

事務局より説明。

① 前回議事の確認

② 第４次ごみゼロプラン計画素案について

（質疑応答）

A 委員：資料３の４ページに記載されているグリーン購入法について、10 年間の計画期間の中で市民生活へどのように浸透・展開していくのかが示されていない。また、資料 4 の 31 ページの基本理念にある「循環経済」という用語は、企業や金融活動の印象が強く、一般市民の感覚からは違和感がある。「循環社会」や「循環型社会」など、市民にとってより身近で分かりやすい表現を用いるべきではないか。資料 6 の生活排水処理基本計画に関して、日野市の公共下水道普及率は決して高くない印象がある。将来展望について計画の中で示す必要があるのではないか。

事務局：グリーン購入の考え方は、事業者が責任を持って環境配慮設計や製造を行い、市民がその製品を選択して資源循環につなげるという点において、本計画が目指す循環経済の理念と共通している。また、「循環経済」については、国が循環型社会から一歩進んだ社会づくりとして強力に推進していることから、本計画の基本理念に盛り込んだ。文言だけでは市民に浸透しづらく分かりづらい印象を与えるというご指摘はもっともであるため、従来の循環型社会との違いや、なぜ循環経済が必要なのかといった解説を 31 ページ等に追記することを含め、再検討したい。

事務局：本市の下水道処理人口普及率は現在約 96%強であり、未整備区域は残り約 4%となっているが、土地区画整理事業に合わせて整備を進めている関係上、進捗に時間を要している。一方、整備に先行して下水道整備に着手する方針も打ち出されている。市として 100%整備を目指す方針に変わりはなく、現在の内容で進めていきたいと考えている。

会長：グリーン購入法に関連して、3R や 5R の推進、分別の徹底に加え、市民が再生商品をどれだけ購入しているかという視点も大切である。ごみ減量だけでなく、再生されたものを市民が選択して使うという意識の共通化や取り組みについても、計画に記載していくことが望ましいと考える。

③　グループワーク

「計画素案検討」

（1）概要説明

（2）グループワーク

（3）発表

（4）講評

3．その他

(1) 第6回協議会について

令和9年1月26日（火）で調整中

(2) 第4次ごみゼロプラン策定に関する今後の予定

令和8年11月20日（金）	第1回廃棄物減量等推進審議会（中間報告）
令和8年12月1日～31日	パブリックコメントの実施
令和9年1月26日（火）	第6回協議会（パブリックコメント結果の報告）
令和9年2月12日（金）	第2回廃棄物減量等推進審議会(諮問・答申)

4．閉 会